助川山保全くらぶ
第１４８号
（平成10年11月28日創刊）

助川山保全くらぶ

http://www.net1.jway.ne.jp/zg6y-hri/

令和５年９月１日
会　長 岡田　譲
編集者 鈴木 睦男
TEL. 36-6538

２０２３日立エコフェス

（鈴木）

★コロナが収まって来たので市では令和３年から中止していた「エコフェス」を本格開始することになり、参加団体の募集があり、保全くらぶも参加した。

★期日は、７月２２日(土)となり、前日が準備に充てられ、２１日午後に作業を実施した。実施要領は以前のやり方が踏襲されたので思い出しながら準備作業が出来た。

★全体規模は以前の７、８割程度と思われ、来場した子供達も少ない印象。

★保全くらぶのブースで楽しめる工作はコロナ前とほぼ同じとした。

★人気のあったのは、竹細工、ドングリ人形やセミの抜け殻などであった。押し花は８０人位、木工工作も１００人超は楽しんだようだ。

★クラブ員は、押し花に２人、木工工作に４人位、全体では１０人位で何とか対応が出来た。

植樹地除草・園内整備作業

保全項目	実施日	作業内容	作業の様子
除草作業	６月27日 ７月11日 （景観）	・頂上のツツジ周りの除草作業を実施した。１回では無理と考え、南側寄りの急斜面から除草を行った。 ・７月11日に２回目を実施し、前回残ったエリアの除草を実施し全体を終了した。ヤマユリも数株生育し楽しみだ。	
	７月６日 （野草）	・ビオトープの柵周りの除草作業を実施。最近の雨でミズバショウ苗の植付け部は水浸しで根付いているようだ。 ・予定としては、ビオトープとおむすび池間のクルミ植樹地の除草も計画していたが雨が止まず少人数で中止とした。	
	７月18日 （定例）	・おむすび池植樹地の除草作業実施。 今年１月22日の林業少年団及び２月17日の成小植樹会の植樹地雑草の除草を実施したが苗木は順調に生育中。 ・おむすび池周囲は樹木を整理し、樹形を整えたいもの。	
遊歩道・管理道路保全作業	７月25日 ８月６日 ８月22日 （景観）	・おむすび池手前管理道路に垂れ下がる樹木整理。 道路に垂れ下がるウツギ、キブシやヌルデ等を整理した。 ・管理道路全般に垂れ樹木が見られるが、今回は「バイパス」付近から「Ｓ字」に向け、３回に亘り作業を実施し、残りは状況を見て計画することとした。	
	８月１日 （定例）	・じぐざぐトレールの枯れ松処理に合わせ、トレールの崩れ防止策を実施した。赤松２本を遊歩道に倒れる前に処理。 ・法面の崩れ防止は杭と横棒が必要で枯れ松を横棒に利用。 ・また、壊れたベンチを新規に設置した。	

市民参加巣箱作り

☆令和５年の市民参加の巣箱造りは８月19日(土)開催となった。８月も中旬を過ぎなのに記録的暑さが続くせいか、一般参加は１家族３名だけとなった。

☆暑さで作業は森の教室屋根下の日陰の場所で実施し、水分補給をしながら実施した。

作業の様子

☆くらぶ員で３０個近い巣箱を作った。

公園係との連絡会議

◆令和５年の市と保全くらぶ連絡会は７月５日(水)市役所会議室で開催された。市側は課長、係長他４名、保全くらぶは岡田会長と梶川副会長が出席した。

◆連絡会では園内施設に関し、ひねり沢の残る橋の更新を要望したが、撤去を含め検討、ひねり沢のﾄﾝﾈﾙ下流の道路改修は予算化検討、各トレール法面くずれ防止対策の保全くらぶ計画に了解を得た。園内の枯れ松処理は農水課で検討中。

◆また、１０月には「公園すてき化計画」が予定され、保全くらぶも協力を要請された。

ミズバショウ種蒔き

★令和５年のミズバショウの種蒔きは６月29日に実施。

★今後は、ビオトープ以外へのミズバショウ展開も考慮して、昨年と同じプランタ５個に種蒔きした。

★一方、昨年の苗は既にビオトープに約３７０ヶ所に分けて植えているが、このところの雨で全般に水が行き亘り順調に成長しているようだ。

★発芽を待ちたい。

森の談話室

ひねり沢の渓流を「復活」させたい・・・

（鈴木）

★ひねり沢などを流れる水流は、年々減少しているように見える。渓流は自然公園の大変重要な要素で、ひねり沢などの「渓流復活」が大切だ。

★ひねり沢や杉の沢の水流は“昔”はもっと多かったように思う。今から１５年程前には、ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟから下流も遊歩道から流れが見られ、砂防ダムでは水溜りが何時もあったり、木道橋では橋下まで水が流れていて工事などもした記憶がある。

★また、少し深い水溜りではヤマメ(放流したか)が観察出来たり、更に上流では「カジカ」が泳いでいるのが見られたりした。水量が減り、魚も見られなくなり最近はやや寂しくなっている。

水漏れ防止工事

★水量減少の理由は、流れが途中で地中に潜り、表を流れないことが原因と思われるので、最近、杉の沢で土木作業を実施し、水の“潜り”を止めたが数日後には元に戻ってしまった。放置していると年々水流が減少する心配がある。

★上流の水漏れを無くし途中斜面からの湧水を集め、水量恢復を図るには，保全くらぶの作業では限界があるようだ。“水の潜り”の原因は、岩石や土質の問題や山火事の焼けた樹木の未処理等も原因と考えられ、専門家の意見を聞いた上で根本的な対応を図るなど渓流の魅力復活に取り組むのはどうか。

季節の花便り・・野草班

☆季節の野草便り

助川山のヤマユリは毎年少しづつ増えている印象だ。市民や来場者の協力をお願いしたい。

☆季節の樹木便り

じぐざぐTrと成沢団地ルートの交差点のクヌギが今年は豊作のようだ。今から歩道にまだ熟さない実が落ちている。

担当：(鈴木)

パトロールだより

◆助川山の大火災から30年余を経過し、多種な樹木の共生の中、枯損木や風雨での倒木で、今夏は各ﾄﾚｰﾙや管理道路を塞ぐような倒木が約10件発生した。
その都度倒木処理は実施し、通行時の安心安全は確保しているが、事故が起きないようパトロール時や散歩時の倒木チェックの徹底をお願いしたい。

◆ネイチャーセンター周りの３０本にも及ぶ枯れ赤松の一括した処理については、以前から市に要望しており、安全の為にも早期に実現出来るよう引き続き処理の要請を継続して行きたい。

◆駐車場脇のバイオトイレは、昨年夏臭気が酷かったが、今年は少なくなっている。これはバイオトイレ使用後、便器の蓋を閉めることで装置が稼働し、中を攪拌することで微生物が汚物を分解し、臭気も抑えられるようになっている為らしい。
今後は、パトロール時にトイレの蓋が閉じていることを確認して貰うようお願いしたいと思います。

担当：(梶川)

令和４年度のパトロール計画と実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画	3	4	3	3	1	2						
実施	3	2	2	3	1							
中止	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	

おむすび池

カナヘビについて

★助川山ではどのトレイルを歩いても良く見かけるのが「カナヘビ」だ。正しくは**ニホンカナヘビ**と云われるが仲間でなくトカゲの地方によりいろいろな愛称で親しまれている。

★北海道や東北の一部では**カナチョロ**、新潟では**カナギッチョ**、九州や山口で**カペチョロ**などと呼ばれ多様な愛称で呼ばれるようだ。

★このカナヘビの一日は朝は日当たりの良い場所で日光浴をし体温を上げてから活動を始めるようで自力で体温調節が出来ない**変温動物**と呼ばれているとか。このため人目に付き易いのは昼行性と日光浴のためと思われる。

★カナヘビは体温が上がると餌を探し始めクモなど昆虫を餌とするようだ。

★捕まりそうになると尾を自切し逃げ、休眠中に再生するが再生の尾には骨は無いそうだ。

（睦）

くらぶ内外の話題

◆７月上旬にテレビで埼玉の狭山市で自生している**ヤマユリ**約１，０００株の花が咲き出し、今が見頃と伝えていた。
中には、５０個程の花を付ける株もあり、白い大輪の花と甘い香りが漂い、大変人気と云うことで沢山の人が訪れていた。

◆助川山でもヤマユリを楽しんで貰おうと竹を立てたり保護に努めているが、ユリ根を掘ったり、花の咲く時期直前で花芽を折ったり悪戯する人が絶えない。何とかこの種の問題を克服し、助川山でも皆でヤマユリを楽しめるようにしたいもの。

編集後記

◆３年振りで市のエコフェス行事に参加した。出展内容を中止前と変えなかったので、木工工作の手持ちの材料があったので準備に手間が掛からず助かった。

◆展示場所は中止前と同じﾏｰﾌﾞﾙﾎｰﾙ「会議室」だったが内部での位置は入口側に近いところとなった。くらぶのブースには結構来場者がおり賑やかだった。